

4-4				
主題	通所介護におけるパッケージ化			
副題	Flexible digital care connect 民設民営での運営			
キーワード 1	パッケージ化	キーワード 2	デジタル	研究(実践)期間 6ヶ月
法人名・事業所名	社福) 奉優会 等々力の家デイホーム			
発表者(職種)	古林美重(責任者兼相談員)			
共同研究(実践)者	なし			
電話	03-5752-0037	FAX	03-5752-0067	
事業所紹介	社会福祉法人奉優会等々力の家デイホームは、東京都世田谷区等々力にて平成13年4月特養併設の通所介護事業所として運営開始。利用定員は43名。在宅の高齢者の方々に安心と充実した日々を提供させていただいています。私たちは、地域社会との連携を大切に、ご利用者一人ひとりのニーズに応じたケアを提供。			

### 《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当法人では多くの通所介護事業所を運営しており、運営形態は公設・民設・併設・単独と様々である。2020年新型コロナウイルス感染拡大から、通所介護の運営は非常に厳しい状況が続いた。また、都内では数多くの通所事業所が点在している。

この状況の中、どのような運営手法を取れば、コロナ禍以前の、また持続可能な事業所運営ができるのか?との課題に直面していた。

### 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

まず、サービススタイルを分け、それぞれの強み弱みを明確にした。通所介護の強みは、地域に根ざした柔軟なサービス提供や利用者の自立支援、多様なプログラム提供が挙げられる。一方で、施設運営のコスト上昇やスタッフの確保、利用者数の変動に伴う稼働等経営の課題がある。これらの要素を踏まえつつ、地域に密着し利用者のニーズに応える柔軟性が魅力だが、経営面での課題にも注意が必要である。法人内の通所事業所の特徴を4つに分類しパッケージ化することで、①サービスの統合と効率化②利用者への選択肢の提供③品質の向上と一貫性の確保④効率的なマーケティングとアピール⑤職員の効率化と研修の向上が図れるのではと考え、「等々力の家デイホーム」にはどの手法が効果的か実践研究してみた。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

「等々力の家デイホーム」が該当するパッケージは、『Flexible digital care connect 民設民営での運営～デジタル化と柔軟性を活かしたパッケージ』である。

民設民営の通所介護事業において、デジタル化と柔軟性を駆使し、利用者にとって便利で楽しいデジタルテクノロジーを活用したサービスを提供する。このプログラムでは、オンラインケアプラットフォームやデジタルエンターテインメントを通じて、利用者が柔軟な利用形態でサービスを受けることができる。個別のニーズやライフスタイルに合わせてカスタマイズされたケアを提供し、デジタルテクノロジーを活用することで、利用者がより豊かな生活を送るためのサポートを行う。デジタルを通じて、利用者が自分らしい暮らし

しを営むための選択肢を提供し、生活の質向上を図る。

#### 《4. 取り組みの結果》

まずは、ご利用者へのレク提供にデジタルを活用してみた。ゲーム機器やオンラインでのリモート体験等を実践した。

これまでのアナログなレクをどのように提供すれば、高齢者にマッチするかが一番苦戦し、実際ご利用者へ提供するまでにかかなりの期間を要した。動画を使った手工芸、TV ゲーム機器を活用したスポーツゲーム、他事業所合同でオンラインレクやボランティアによる音楽鑑賞。初めてのことで、ご利用者の戸惑いもあったが、今ではこれが普通になった。ご自宅でもデイサービスで体験した同じものをするできるようになり、ご自宅でも楽しめることが増え生活が豊かになった。

これらの取り組みで、高齢者になっても新しいものに順応する力があることを実証できた。稼働率は85%以上を常にキープし安定的に当期活動差額を出すことができている。それにより、再投資として、大規模改修やテーブル、椅子の入れ替えといった経費として大きくかかる部分にも躊躇なく対応することができている。

その他、等々力の家デイホームのウリの一つにもなっている『遊歩クラブ（歩行訓練）』にAI歩行解析アプリを活用。日々の機能訓練の成果がレポートとして一目でわかり、より歩行訓練への意欲が高まった。これは、ケアマネジャーやご家族様にも好評である。

#### 《5. 考察、まとめ》

「高齢者も今を生きている」古いものを継続して提供していると満足は得られない。

新しい体験に順応するには時間がかかりますが、継続することで当たり前になる。

デイサービスの過ごし方は、長年変化がなかったように感じるが、利用される方々の年代は確実に変わってきている。時代の変化があるように、デイサービスの在り方も変化する必要がある。まだ研究段階なので、今後のサービスの中でご利用者の困りごとやニーズに合わせて、私達に何ができるか？どうすれば課題を解決できるかの視点を持ち、今後も進化するテクノロジーをサービスに融合させ、品質の向上、満足の向上、運営の効率化などに役立てたいと思う。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

AI アプリ トルト <https://toruto.carewiz.ai/gait-analysis/>

#### 《8. 提案と発信》

コロナ禍を経て、介護業界は大きな変革の時期に直面している。私たちが行った「等々力の家デイホーム」の実践を通じて得られた成果と知見をもとに、以下の提案をしたい。

1. デジタル技術の積極的導入、2. 地域との連携強化、3. 職員のスキル向上、4. 柔軟なサービス提供。  
時代の変化に対応し、常に進化することが求められる介護業界において、私たちは「時流に乗る」ことをモットーに、デジタル技術の導入と地域密着型の柔軟なサービス提供を進める。「誰一人取り残されない社会の実現」に向けて「すべての高齢者がその方らしい暮らしを大切に」を念頭に置き、自己実現を達成するために、『自分らしく過ごせる環境』を整え、本人が望むものを提供し、自主的に参加して頂けるよう注力していく。デイサービスは「社会とのつながる場」であり、「誰一人取り残されない社会の実現」に向けて、社会情勢を反映させ、新しい試み等にも積極的に取り組むことにより持続可能なサービス提供につながると考える。当法人では取組みをソーシャルメディア等で積極的に発信を行っている。ぜひご確認いただきたい。